

柏崎農業まつりで広報・広聴活動

北陸農政局柏崎周辺農業水利事業所

10月25日（日）、柏崎市文化会館アルフォーレ及び駅前公園にて、かしわざき食の地産地消イベント「ぱくもぐフェア」、柏崎農業まつり、かしかり虹まつりの3イベントが同時開催されました。市内の人気イベントが集合ということもあり、開始時刻前から大勢の来場者が詰めかけました。会場には旬の地元野菜や農産加工品を買い求める長い行列ができ、地産地消への関心の高さが感じられました。かしわざきバーガーやサバサンドといった地元名物のグルメが人気を集めたほか、多くの地元農家の漬け物・焼き餅などコメ加工品などが販売され、柏崎市でも生産から加工・販売までの6次産業化が着実に進んでいるようです。

ぱくもぐフェア、柏崎農業まつり、かしかり虹まつりが合同で開催されるのは今年で初めてで、約2万人（主催者発表）が訪れた会場では、ガラポン抽選会や農産物の重さ当てクイズ、新潟のご当地アイドルグループ「Negicco」のミニライブなど様々な企画が催され、賑やかな秋の日となりました。

柏崎周辺農業水利事業所は会場入り口付近の好位置にブースを設け、事業や地域活動の紹介を行いました。国営事業地区の地形や地域の行事を立体的に現したジオラマの展示や「新潟の土地改良100年」のビデオを上映するとともに、農業用水クイズラリーを実施したところ、パネル・概要図を持って説明する作戦が大当たりし、多くの方に足を止めて頂きました。



爽やかな秋晴れのもと、農業まつりが開催



市内数十店舗の店が出店



柏崎事業所のブースも大盛況



手作りのジオラマに興味津々

職員の説明に、「今年の夏は水があつて良かった。」との感謝の声や、「ダムは見学できますか。どのくらい水が溜まりますか。」などの積極的な質問があり、じかに話をする事でより事業に関心を持っていただいたものと思います。

地域活動の紹介は、「万灯会」のPRと、その際に用いるロウソクを入れるガラスコップの絵付けイベントを行いました。「万灯会」は、後谷ダム満水を記念して始めた行事で、夕暮れ時にロウソクの灯りでダムをライトアップし、柔らかな灯りで穏やかに夏の夜を楽しむイベントとして、今年も多くの方の来場がありました。絵付けコーナーでは職員が制作した見本を展示して来場者の創作意欲を掻き立てたところ、子供を中心に約100個の作って頂きました。これらの作品は、来年の万灯会に使われ、多くの来場者の目を楽しませることと思います。

以上のような約6時間の出展でしたが、こうした地元密着型の活動を通じて地域の皆さんの声を丁寧に聴きながら、伝えたいことを丁寧に伝えることが、活きた広報活動につながっていくものと思ひ、今後も事業や農村振興へ理解の醸成に励んでいきたいと思ひます。



クイスラリーには100名以上の親子が参加



重機のミニ模型は子供達に大人気



万灯会のビンの絵付けにみんな真剣



約100個の絵付けビンが完成